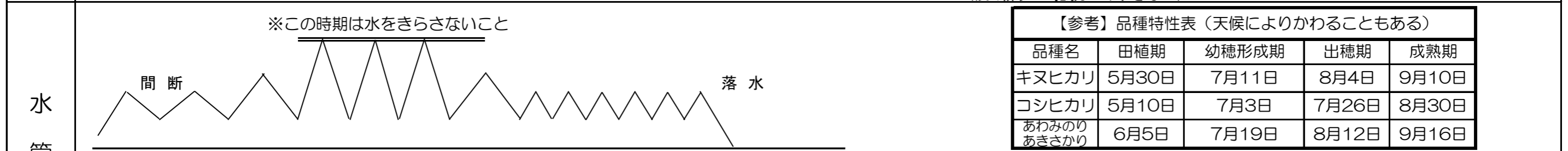
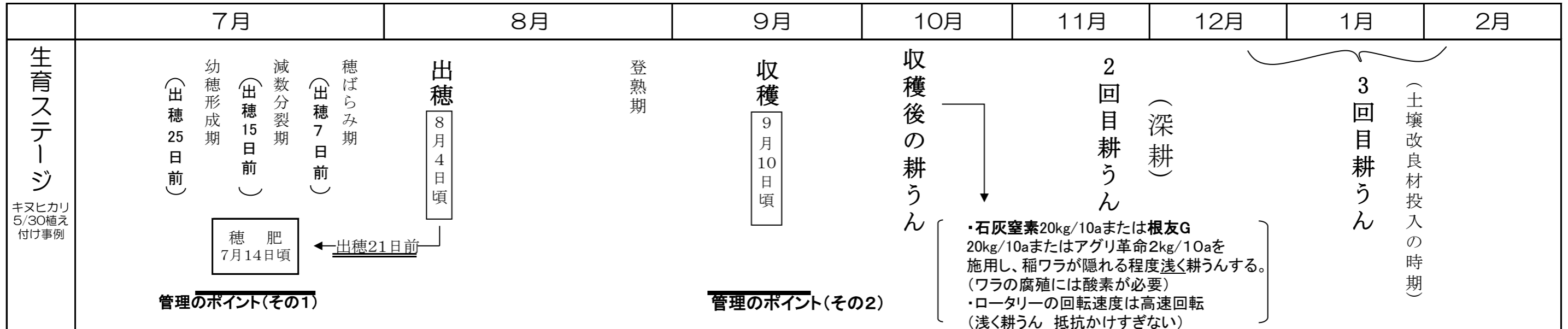


令和4年度水稻栽培講習会資料

〈適切な栽培管理により安心安全で、低コスト・高品質な一等米作りに努めましょう〉

JA東とくしま農業振興対策部

【普通期】



1) 中干し後は、間断灌水を基本とする。
2) 特に、穂ばらみ期から穂ぞろい期までは、水を切らさないよう注意する。
3) 穂ぞろい期以降も、間断灌水とする。

落水時期は収穫作業にさしつかえない限り遅らせる。
※登熟期の水分不足は未熟粒の増加や収量、品質の低下を招く。

◎幼穂の大きさと穂肥の施用時期

穂肥の施用時期

約5mm (21日前) 約1cm (18日前) 約3cm (15日前) 約18cm (7日前)

第2葉伸長 止葉抽出 止葉伸長 穂ばらみ

管理のポイント

管理のポイント(その1)

穂肥の施用

(1) 元肥一発肥料施用田では基本的には必要ない。
(なお、天候により穂肥が必要となる場合がある。※要相談)

(2) 穂肥時期は、コシヒカリでは出穂の15日前(幼穂長3cm)、キヌヒカリ・あわみのり・あきさかりは出穂の21日前(幼穂長0.5cm)頃に行う。
施用例) BBみのり10~15kg/10a
BBNK52号10~15kg/10a
おてがるくんNK10~15kg/10a




※留意点
①過剰な施用は食味を悪くするため、施用量に注意する。
②カラスケールによる施肥診断
葉色は太陽を背にし、3m離れた位置から測定する。

管理のポイント(その2)

収穫の適期

(1) 籾の80%が黄化したときが適期。
(2) 出穂期(穂揃い期)をよく観察し、刈り遅れによる品質低下がないように十分留意する。
(3) 品質低下を避けるため、収穫籾袋は圃場周辺に長時間放置せず、短時間のうちに乾燥に移す。

葉色	穂肥の要否	キヌヒカリ・あわみのり
3.5以下	極めて必要	20kg
3.5~4.0	かなり必要	15kg
4.0~4.5	必要	10kg
4.5~5.0	ほとんど必要なし	5kg

病 害 虫	発生	病害	葉いもち・紋枯	穂いもち・もみ枯細菌		
	時期	害虫	カメムシ・コブノメイガ・ニカメイチュウ・ウンカ・ヨコバエ	カメムシ・ウンカ・イネツトムシ ツマグロヨコバイ・コブノメイガ		
	月		7月	8月	9月	
	基 幹 防 除		<p>リンバー粒剤 3~4kg/10a (収穫前30日まで2回以内) ※適期は出穂30日前~出穂期</p> <p>いもち病発生圃場では・・・ コラトップ粒剤5 3~4kg/10a</p>	<p>キラップ粒剤 3kg/10a (収穫14日前まで、2回以内) ※出穂10日前~出穂期にかけて散布適期</p>	<p>キラップ粒剤 3kg/10a (収穫14日前まで、2回以内) ※出穂10日前~出穂期にかけて散布適期 ※2回目する場合</p>	
防 除	補 完 防 除	<p>○本田中後期</p> <ul style="list-style-type: none"> いもち病 オリゼメート粒剤 3~4kg/10a (初発10日前~初発時、2回以内) ビームゾル 1,000倍 (収穫7日前まで、3回以内) 紋枯病 バリダシン液剤5 1,000倍 (収穫14日前まで、5回以内) 	<ul style="list-style-type: none"> カメムシ類・コブノメイガ・ウンカ類 トレボン乳剤 1,000倍 (収穫14日前まで、3回以内) 稲こうじ病・いもち病 ブラシンフロアブル 1,000倍 (収穫7日前まで、2回以内) ※稲こうじ病に対する薬剤散布の適期は出穂前 8~18日 	<p>☆収穫後は耕うんを！☆</p> <p>① 収穫直後もしくは台風前には稲ワラを土中に入れ、圃場外への流出を防ぐ。この際、石灰窒素(20kg/10a)を施せばワラの分解を促す。</p> <p>② 難防除雑草(オモダカ・クログワイ等)については、秋冬期の耕耘によって塊茎等の死滅をうながす。</p> <p>③ 難敵のジャンボタニシを破碎できる。浅く、作業速度は遅く、ロータリーの回転を速くする。(ロータリーに負荷をかけすぎないこと)</p>		
そ の 他	<p>【ワンポイント】カメムシ類対策の草刈り</p> <p>出穂10~15日前までに水田周辺の畦畔や堤防の雑草の刈り取りを行う。刈り取った雑草は放置するとカメムシ類のすみかとなるので、集めて処分する。 (出穂直前の刈り取りはカメムシ類を水田に移動させてしまうので注意)</p> <p>【ワンポイント】キシウスズメノヒエ(よばい草)対策</p> <p>稲刈り後にラウンドアップマックスロード50倍を発生している場所に散布する。 (または、デゾレートA(水溶剤)または、デゾレートAZ粒剤)</p>					
備 考	いもち病	葉いもち病は窒素過多で軟弱徒長気味の成長をし、日照不足で25℃~26℃の温度が発生の好条件。				
	紋枯病	窒素過多や密植または過繁茂となり高温(30℃~32℃)で多湿の場合に発生が多い。				
	カメムシ類	被害が多い発生田では必ず防除する。検査時に、着色粒(斑点米)が、中型カルトンに2粒以上混入していると2等に格落ちする。				
◎JA東とくしまでは、買い取りによる有利販売ができるよう努めてまいりますので、1袋でも多くの出荷をお願いします。						
◎出荷される米に関しては、生産履歴の提出は必須となりますのでお願いします。						

農薬散布の飛散に注意